

2019年11月11日

報道関係各位

株式会社トーヨー養父農業生産法人

### 「トーヨー養父第二農場」収穫祭のお知らせ

株式会社トーヨー養父農業生産法人（本社：兵庫県養父市／代表取締役岡田吉充）は、中山間農業改革特区“兵庫県養父市”において、2019年7月に完成した「トーヨー養父第二農場」にて、9月に定植をおこないましたトマトが収穫の時期を迎えました。

つきましては、収穫祭をおこなう運びとなりましたのでお知らせいたします。

当社は農業者を総合的に支援することを目的とした補助金に基づき、高精度で収益性の高いトマトを栽培し、地域農業の活性化に貢献いたします。

#### 《収穫祭日時》

日 時 : 2019年11月30日(土)  
式 次 第 : 神事 12時30分～13時15分  
収穫祭 13時15分～14時00分  
場 所 : 兵庫県養父市大藪1159

#### 【案内図】



■本計画・目的について

最新鋭の栽培技術の試験圃場を取り入れたトマトハウス施設の運営をいたします。養父市は、夏は暑く冬は寒い豪雪地域のため一般的な農業形態には難しい地域ですが、本事業においてはトマトを栽培品目に選び、夏場を植え替え時期として秋に定植をおこない、豪雪にも耐えられるハウスで冬超えをします。この栽培技術により通年での栽培が可能となり養父の厳冬を乗り越えた高糖度でコクのあるトマトを安定生産・安定品質での出荷を可能にし、養父市のブランドトマトの確立を図ります。

■施設概要

名 称	トーヨー養父第二農場
敷 地 面 積	7,482 m <sup>2</sup>
延 床 面 積	4,557 m <sup>2</sup>
構 造	鉄骨造
高 さ	最高部 7.05m
生 産 物 / 品 種	トマト/セレブスイートなど
雇 用 人 数	6名
出 荷 量	約 163 t (5年間で)



左上：全景 右上：鳥瞰 左下：定植後約4週間 右下：定植後約7週間

■ハウスの特色

温度、湿度、CO<sub>2</sub>、日照、灌水、給液など作物に適した環境の自動制御をおこないます。軒高を高くし誘引を垂直化することで太陽光を最大限に取り入れ、密植栽培を可能にし、収量のアップと糖度12度を目標に生産いたします。高所作業車や自走式防除機、選果器の導入により、作業の省力化を図り延べ人数平均4.6人（社員1人、パート3.6人）での運営が可能になり、生産性・機能性・経済性を徹底追求した環境・人・作物に優しいハウスです。

## ■今後の展望

AI や IoT などの最先端技術を活用し環境制御をおこない、最適な収穫時期を判断いたします。品種ごとに最適な栽培をおこなうことで収量のアップや高糖度を実現します。

生産～収穫～出荷までの省力化を図り「スマートアグリ」を実践します。ハード&ソフトと運営を含めパッケージ化した新たなビジネスモデルを確立し販売することで企業の発展を図り、「養父特産」「トーヨー特産」として販売し、ブランド力を強化することで地方創生と農業振興に貢献します。

さらに、再生可能エネルギーとして注目されているメタン発電所から副産物として生成される消化液の利用等、異なる分野とも連携し養父市のさらなる発展に寄与してまいります。

## ■グループ概要

トーヨーグループは「人に寄り添う企業」を掲げ「安心安全で住みやすい街づくり」を目指しております。国内外において同様のプロジェクトのみならず、ベトナムでは世界最大規模となる日量約 1500 トンの家庭から排出される廃棄物をメタン発酵施設で処理し、10MW の発電や RPF 製造、リサイクル回収をおこないます。インドネシアでは環境省の JCM 制度を利用した 12MW 小水力発電設備、国内では当該物件に隣接して家畜ふん尿を利用したメタン発酵発電施設、石川県輪島市で間伐材を利用した木質バイオマスガス化発電施設、福島県を中心に太陽光発電設備など、全てのプロジェクトをエンジニアリングからおこないます。

また、トーヨーエネルギーファームでは、グループのリソースを活用し、国立大学法人筑波大学との共同研究「知の集積プロジェクト」にて、高付加価値トマト品種の普及に寄与するロボットおよび温室システムの開発を推し進めております。

開発された AI・IoT などの最先端技術は、国内外において活用し、発展的な農業の確立や、安定的な「食」の提供に寄与してまいります。

今後、トーヨーグループではあらゆる分野にてさらなる雇用創出や地域経済の活性化のみならず、CO2 削減などの社会問題の解決にむけて邁進してまいります。

《本事業に関するお問い合わせ先》

株式会社トーヨーホールディングス 広報：03-4400-6104